

林

産六百四十二萬餘圓

外に三百萬圓の副産物

十年度の林野産物調

昭和十年に於ける林野産物總價額は六百四十二萬一千三百四十五圓にして内公私有林伐採二百六十七萬一千六百六十四圓(四割一分六厘)林野産物二百九十二萬四千八百四十四圓(四割五分五厘)石材土石八十二萬五千四百九十七圓(一割二分九厘)である。

而して之を郡別に觀るときは久慈郡の百十七萬四千四百八十六圓が第一位を占め西茨城郡の八十四萬六千八百七十一圓新治郡の六十九萬一千七百十五圓、那珂郡の六十七萬六千八百二圓、多賀郡の六十二萬一千七百九十九圓、東茨城郡の五十九萬四千七百二十四圓の順で其の他五十萬圓を超えざるも

用材	公有	社寺有	私有	計	總價額ニ對スル割合
薪炭材	九、八八八	二、八六二	一、三二五、〇四〇	一、三三三、七九〇	五割〇分一厘
竹材	一一、九五八	七、〇四九	一一、二四〇、八八三	一一、二四〇、八八三	四割七分二厘
	二三	二四九	七二、七二二	七二、九八四	〇割二分七厘

更に此の用材、薪炭材、竹材を郡別を示せば次表の如くなる。(△印は減)

郡名	用材		計	薪炭材	竹材	價額計	前年ニ比シ増減
	針葉樹	闊葉樹					
東茨城	六五、〇六一	三九、九六七	一〇五、〇〇八	一五、五五五	七三九	二五、九三三	△
西茨城	七九、一七九	一一、七五五	九〇、九三四	八、六八八	一、三七八	一七、四〇〇	△
那珂	二五、七五五	六、八四一	三二、五九六	一、九六六	三、〇五八	四、四〇一	△
久慈	三九、〇〇六	三、三三三	四二、三四九	一、七〇八	七、一〇八	五、四六六	△
多賀	一七、三五八	一、四八九	一九、〇四七	一〇、四九九	七、九八	二、〇二五	△
鹿島	一三、九〇〇	一、二二二	一五、一二二	八、八八四	二、一〇七	一〇、〇一五	△
行方	二九、九四六	二、七三四	三二、六八〇	七、七四九	五、五〇〇	三、二四〇	△
新治	二六、五三七	三、三三三	三〇、九一〇	八、一五九	八、一七一	一、五三〇	△
筑波	五〇、〇〇九	一、五〇〇	五一、五〇九	二、五〇九	八、四六六	三、四一三	△
眞壁	六七、七三三	一、三三一	六九、〇六四	七、八八八	六、八八九	一、五九九	△
結城	六、五五〇	一〇、八四四	一七、三九四	六、五五九	四、四〇〇	一、五八三	△
猿島	一九、六三九	三、七四四	二三、三八三	三、四四九	四、五八八	四、五八〇	△
北相馬	三、九六三	二、八六一	六、八二四	六、四六六	二、四〇一	五、五五三	△
合計	一、一六三、〇五一	一、四四、四九六	一、三〇七、五〇七	一、五〇、〇六〇	七三、六六四	二、二七、一六四	△

△林野副産物 次に林野における副産物は總價額二百九十二萬四千八百四十四圓にして内木炭二百十萬八千二百七十八圓(七割二分一厘)柴草四十九萬一千六百二十四圓(一割六分八厘)樹實及樹皮二十九萬一千五百十二圓(一割〇分〇厘)筍二萬一千三百四十七圓(〇割〇分七厘)松茸及椎茸五千六百八圓(〇割〇分二厘)其の他五千八百十五圓(〇割〇分二厘)あり、

之を前年に比すれば總價額八萬五千二百六十五圓(〇割三分)の増加で、之を細別すれば木炭は四萬九千二百五十三圓(〇割二分四厘)柴草は二萬百圓(〇割四分三厘)樹實及樹皮は一萬一千四百六十七圓(〇割四分一厘)筍は二千六百六十九圓(一割四分三厘)松茸及椎茸は千八百圓(四割七分三厘)を孰れも増加した。

△石材土石 林野産物の内石材土石の總價額は八十二萬五千四百九十七圓にして内花崗岩五十二萬六千七百八十四圓(六割三分八厘)砂利二十一萬三千四百七十三圓(二割五分九厘)大理石四萬三千三百圓(〇割五分二厘)粘土一萬七千二百二十四圓(〇割二分一厘)其他二萬四千八百十六圓(〇割三分)にして前年に對比し總價額に於て十五萬九千九百五十五圓(二割

二分四厘)を増加したが種類別に於ても花崗岩が六萬八千五百三十九圓(一割五分)砂利が七萬九千八百三十六圓(五割九分七厘)大理石が四千七百圓(一割二分二厘)孰れも増加し粘土に於ては三百七十七圓(〇割二分二厘)其他に於て千七百三圓(〇割六分四厘)を減少した。



宮城縣の視察團

—口繪參照—

宮城縣では昨年五月二十三日統計協會を組織し、之が機關誌として「宮城統計」を年四回發行することゝなつたが、更に同會では本縣同様統計事務優良町村の視察をも計畫し、第一着手として千葉、茨城兩縣へ視察團を派遣することゝなり、一行十四名は同縣統計主事補中村寅雄氏に引率され五月二十六日先づ上京して内閣統計局其他を視察し、翌廿七日は千葉縣市原郡市原村、印旛郡阿蘇村を視察

して二十八日本縣に來り、水戸市内を見物の後午前十時半頃縣廳に來訪、川崎統計課長から本縣統計事務の概要に付て説明を受け、更に本縣統計事務の今昔と其の進歩改善に就ての沿革等をも尋ねた後渡邊本縣屬の案内にて那珂郡佐野村を視察することゝなり午後一時頃自動車運んで同村に至り、根本書記並調査員の説明を聞き歸縣した。

我等がまことの

勞苦を知るや



武田村 境 勇

昨年實施せる國勢調査は、國策樹立上實に重且つ大なる調査たるは、何人も良く熟知する所にして、今更喋々論議する迄も無いが、斯くの如く國を擧げて、あらゆる宣傳普及に務め、全國民に其の重要性を深く認識せしめ、以て調査に、申告に萬全を期し、萬遺憾無からしめればこそ彼の國家的調査も難無く遂行し得たのである。

蓋し國勢調査とは統計中の人口及び其の動態調査であるが、國家的問題として本調査に次ぐ問題は吾人の生命を繋ぐに必要欠く可からざる我等の主食物たる米、則ち是れを調べる米生産統計調査であつて是亦如何に重要であるかは論を俟たない。

此の意味に於て後者は猶一層國民的

の宣傳を要するの切實なるを思ふものである。

もし本調査が形式上の統計たらむかために折角國勢調査に於て費した努力も後者の爲めに破壊され、國家施政上甚だ寒心に堪えざる状態となりはせぬか。論者或ひは云ふ、前者は一般的にして、後者は一部の農家に限ると、諸君、生産は誠に一部のものなりと雖食する者は是れ全國民ではないか、米生産調査ほど重大なものはないといつても過言でなからう。

國家は今正に非常時中の非常時に際會してゐる、而して此の非常時中の最も重要な食料の問題に關する米生産調査は、此の際一層眞剣に正確に取扱はねばならぬ。これがためには農家を

町村統計主任者異動(上は新任)

- 昭和十一年四月一日 久慈郡東小澤村 川崎 傳之介 (大貫 正夫)
- 四月十二日 眞壁郡上妻村 須藤 兵一郎 (倉持 守三郎)
- 四月三十日 東茨城郡橋村 農林、商工、人口内務統計 大石 吉次郎 (内田 重五郎)
- 學事統計 關 龜松 (長山 藤之介)
- 全 全 行方郡玉造町 農林商工統計 佐竹 有信 (成島 彌一郎)
- 人口統計 池田 健吉 (須原 郡司)
- 五月七日 久慈郡戸村 山崎 秀吉 (藤田 隆治)
- 五月八日 那珂郡靜村 秋山松之介 (秋山 易司)
- 五月十四日 久慈郡生瀨村 鴨志田 一德 (川上 米次)
- 五月十三日 稻敷郡十余島村 小倉 富次 (飯島 平兵衛)